

第1回 軽金属女性未来賞受賞者表彰

軽金属女性未来賞は、軽金属分野において学術研究または技術開発に顕著な功績をあげ、将来の活躍が期待される新進気鋭の女性研究者または女性技術者に贈られるもので、本年度創設された。軽金属女性未来賞選考委員会（委員長 小野幸子）の審査を経て、9月18日（金）に開催された(株)軽金属学会第98回理事会において慎重審議の結果、下記のとおり2名の授賞を決定、(株)軽金属学会第117回秋期大会第1日目の11月14日（土）に電気通信大学において表彰式を挙行了た。

受賞者



鈴木 真由美 君
(東北大学)

表彰理由

鈴木真由美君は、マグネシウムを主とした軽金属材料を対象に、その高温クリープ挙動の解明と高強度化に関する研究に携り、多くの優れた業績をあげている。实用マグネシウム合金中でも特に優れた高温強度を示すマグネシウム-希土類合金においては、クリープ条件下におけるマイクロ組織変化について詳細な解析を行い、希土類添加による強化機構を理解する新たな因子を提案している。また、Mg-Al-Ca基自動車用耐熱マグネシウム合金についても、凝固時に導入される共晶相の粒界被覆状態や粒内析出物の影響を明らかにしている。

一方、軽金属学会の各種委員会活動にも精力的に参画し、平成13年より発足した若手の会の初期メンバーとして、あるいは平成18年に設立された「女性会員の会」設立発起人など、学会内での新たな連携を目指した組織の運営にも貢献している。

以上のように、同君は耐熱マグネシウム材料の研究開発において多くの成果をあげ、今後ますます増えるであろう女性研究者の研究環境向上にも貢献しており、更なる活躍と貢献が大いに期待される。

受賞者



鳥居 麗子 君
(三菱アルミニウム(株))

表彰理由

鳥居麗子君は、三菱アルミニウム株式会社において初めて女性の総合職として入社し、技術開発センターに所属、アルミニウムの表面処理の研究開発に従事し優れた業績をあげた。特に、半導体製造装置に不可欠な、腐食性ガスにも安定なふっ化不動態皮膜の生成条件や耐食性能の評価方法の確立に貢献した。その成果は、軽金属学会の大会にて発表されている。

その後、3度の育児休暇を経て、研究開発部 試験分析室に所属を移し、分析業務の改善に尽力してきた。例えば、EPMAの全粒子解析を利用したアルミニウム合金中の金属間化合物等の分析法を確立し、アルミニウム缶材や自動車熱交換器用材料の合金開発に大きく寄与してきた。現在は分析グループリーダーとして中長期的見地から機器分析の計画的な導入、更新業務を推進するとともに、グループ内の人材育成等を図るなど、機器分析のレベルアップに大きく貢献している。

軽金属学会では、女性会員の会において、子を持つ母親としての立場で中心的存在として活躍を続けており、軽金属学会誌のLMコラムへの投稿などを通して、アルミニウム企業での女性の地位向上に貢献してきた。

同君は、今後とも社内のみならず軽金属業界での働く女性の中心的存在として活躍が期待される。